



がんを知り、がんと向き合う2016 ～相手の心情に寄り添う、愛のある医療～

がんセンター・がん診療部長 高 蓋 寿 朗

きびしい寒さもひと段落した2月28日の日曜日に、呉市文化ホールにて当院主催の「がん講演会」が開催されました。今年も広いホールに満席の市民の来場があり、「がん」という難しい表情になりがちなテーマであるにもかかわらず、なぜか笑顔につつまれた講演会となりました。その雰囲気をつかえたいと思います。

第一部として「がん医療最前線」と題して、当院が誇る医師と看護師による講演がありました。まず外科檜井孝夫医長から「もっと知ろう、大腸がん！」というお話がありました。「安心して下さい！高齢者でも大丈夫ですよ！」とユーモアも忘れず語りかけられ、「がん」に対する不安も和らいだ市民の方も多かったと思います。次に脳神経外科大庭信二科長から「脳腫瘍治療の今昔」のお話がありました。脳にメスを入れるという勇気がいる治療に果敢に立ち向かっている大庭科長の長い経験に基づいたお話は、市民の皆さんをしっかりと引きつけていました。そして、次に看護師の小杉恭子師長からは「あなたの気持ちを大切にするために」と題して、看護師が患者の方にお手伝いできることはどんなことがあるかのお話がありました。チームとしてそれぞれの「がん」患者さんに対応している当院の体制を知っていただける機会になったかと思えます。最後に整形外科の下瀬省二統括診療部長から「体のしこりについて」と題して、軟部腫瘍についてのお話がありました。特に悪性の軟部腫瘍は比較的稀な疾患ですが、当院ならばしっかり診断して治療も可能であることを紹介していただきました。

第2部はmomo & akaneという姉妹によるギターとピ

アノの演奏でした。どうしても少し緊張して聞いてしまう内容の講演のあとでしたが、この演奏が始まると、会場の雰囲気も少しずつ和らいでいくようでした。やはり音楽にも人の気持ちを温かくする力があるのだなあと感じたひとときでした。

そして第3部はお待ちかね、林家木久扇師匠による「笑い与健康」と題した講演でした。笑点のテーマ曲によって、舞台にすっと現れるだけで、会場は拍手と笑いの渦につつまれました。ご自身の「がん」との闘病の経験について、いくつものエピソードを交えて楽しくお話をされ、「今日はしっかり笑って下さいね、笑いは免疫を高めますから病気にもいいですよ」という言葉は妙に説得力がありました。話が続くにつれて、よく笑う呉市民の皆さんの反応も師匠をその気にさせたのか、どんどん声も大きくテンポも速くなっていき、得意の物まねを次から次へとくりだして、会場の盛り上がりも最高潮となりました。市民の皆さんも大満足であったと思いますが、幕が下りたあとに舞台袖の我々に「よく笑ってくれるお客さんで」とうれしそうに語りかけて下さった木久扇師匠の笑顔はととても素敵でした。木久扇師匠ありがとうございました。

講演会に参加していただいた市民のみなさまありがとうございました。この講演会によって、みなさんに「愛と笑顔」を届けることができたなら、我々職員一同これ以上の喜びはありません。

今後もよりよい「がん診療」をお届けできるように努力していきますので、今後もよろしくお願いします。



がんを知り、がんと向き合う2016 ～相手の心情に寄り添う愛のある医療～
主催：独立行政法人 国立病院機構 呉医療センター・中国がんセンター 共催：呉市

